

タイトル	世界はひとつ みんなともだち ~タンザニア~		
氏名	越中 亜季		
学校名	大阪市立東井高野小学校		
担当教科	総合		
実践教科	総合	時間数	5時間
対象生徒学年	第3学年3組	対象人数	32名

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
4限目 「タンザニアと関わりのある国や人々」 ねらい:タンザニアと関わる国について気づく。 日本の人もタンザニアと関わっていることを知る。 (JICA・青年海外協力隊・日本大使館)	・日本製品がタンザニアにたくさんあることに気づく。 ・インドや中国がタンザニアと関わっていることを知る。 ・タンザニアで日本人が活躍していることを知る。	1 ワークシート 2 パワーポイント 3 写真
5限目 「ウガリを食べよう」 ねらい:ウガリの作り方を知り、味わう。	・ウガリについて振り返る。 ・ウガリの作り方を見学する。 ・ウガリを味わう。	1 ワークシート 2 ウガリをこねる棒

カリキュラム案

(1) 実践の目的

- タンザニアについて知る。
- 日本や他の国との関わりに気づき、異文化理解を深める。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 「タンザニアの国土」 ねらい:タンザニアを知り、興味をもたせる。	・動物の写真のポストカードから、タンザニアの様子について想像する。 ・タンザニアの国土について知る。(日本からの位置・アフリカ大陸・国土の形・面積・キリマンジャロ・首都など)	1 ワークシート 2 パワーポイント 3 動物のポストカード 4 ティンガティンガ
2限目 「タンザニアのことば」 ねらい:タンザニアで話されていることばについて興味をもてるようになる。タンザニアの学校生活と日本の学校を比較する。	・スワヒリ語を知り、親しむ。(こんにちは・ありがとう・1~10・ライオン・ゾウ・キリン) ・カンガを知り、いろいろな着方やカンガに書かれた言葉に興味を持つ。 ・タンザニアの学校生活と日本の学校を比較する。	1 ワークシート 2 パワーポイント 3 カンガ 4 キテンゲ 5 お金 6 音楽「ジャンボジャンボ」
3限目 「タンザニアの生活」 ねらい:タンザニアの食べ物を知り、インド料理や中国料理も食べられていることに気づく。タンザニアの生活と日本とを比較する。	・タンザニアの食べ物を知る。(インド料理・インド料理) ・タンザニアでは蚊が恐れられていたり、水を自由に使えなかったりすることを知る。	1 ワークシート 2 パワーポイント 3 写真

授業実践の詳細

タンザニアの授業をする前にインドと中国の国土について、ことばについて、生活について学習をした。子ども達にとって外国の学習はタンザニアは3カ国目となる。事前に学習したインドや中国、そして日本と比較しながらタンザニアについて知るようにした。

1限目: 国土について

はじめに、タンザニアから子ども達へ送ったポストカードを用いてタンザニアの様子を想像できるようにした。ポストカードの多くは野生動物の写真だったため、タンザニアには日本よりも動物がいっぱいいることに気づくことができた。またダウ船や港の様子のポストカードもあったので、タンザニアには海がありたくさんの魚介類が取れることも把握することができた。

次に、アフリカ大陸とアフリカの国々のちがいを説明した後、タンザニアの位置関係を子ども達と確認した。タンザニアの国土の形、首都について説明した後に、日本とタンザニアのどちらの国土が広いかクイズをした。インドや中国と比べるとタンザニアはそれほど広くはないが日本よりおよそ2.5倍広いことが視覚的に分かるようにした。また国語の教科書にキリマンジャロについての記載があり、アフリカ大陸で1番高い山であることが確認できた。算数の授業でも長さの単位(m、km)を学習した矢先だったので、キリマンジャロの高さは5895 mで、日本で1番高い富士山よりも高いことを知ることができた。

最後にティンガティンガを紹介し、不思議な様式で描かれた動物の姿に子ども達は興味を深めようだった。

【子ども達の感想】

- ・タンザニアは日本よりも動物がいっぱいいるなあと思いました。
- ・タンザニアにキリマンジャロという山があって、5895 mもあるなんてびっくりです。

2限目：ことばについて

いろんなことばが世界にはあることを伝えたかったので、事前に学習した中国語やインドで多くの人に話されているヒンディー語を折り混ぜてクイズ形式でスワヒリ語について学習を始めた。そしてタンザニアではお金に動物が描かれていることに子ども達が気づけるようにした。ライオンキングや以前に観劇したアフリカの話を子ども達は良く覚えており、シンバ（ライオン）などは明答していた。

カンガについても事前に教室に飾っていたので「先生、これは何ですか？」と多くの子どもが聞いてきていた。「大きいから、絶対にシーツだよ！」と自信あり気に言っていた子も、クイズの答えが服だと知って、「2枚も組み合わせて着るなんて考えもしなかった。」と驚いていた。カンガに書かれている言葉について説明した際には「今 幸せにすごせているのは 神様のおかげ」という言葉に子ども達は感動していた。

タンザニアの学校では、日本と同じように掃除をすることや日本とは異なって英語を学習すること、図工や体育、音楽の授業がないことに驚いていた。

最後にタンザニアの子ども達にと子ども達が用意した、折り紙駒を手渡した写真を見せて、自分達もタンザニアとつながっていることを意識できるようにした。そしてみんなでスワヒリ語で「ジャンボ ジャンボ」を歌った。

【子ども達の感想】

- ・タンザニアの学校は図工が無いから残念。
- ・タンザニアでも掃除をすると知った。
- ・カンガを着られて、嬉しかった。

3限目：生活について

授業のはじめに、生活の中でどんなときに水を使うのかを考えることから始めた。子ども達はお風呂や洗顔、洗濯、食事の他にプールや掃除などの場面からもワークシートに記載することができた。

次にタンザニアの食べ物の紹介を始めた。夏に、子ども達はタンザニアのお土産としてキャッサバチップスを味わっている。ごはん、パンの他に、キャッサバやウガリが食べられていることを子ども達は知った。また、インドの授業でチャパティを、中国の授業では中華粥を試食している。そこでタンザニアの人がチャパティを食べている写真をクイズにし、インド料理や中国料理もタンザニアで味わうことができたことを伝えた。

市場では野菜や日用雑貨、制服が売られていた。カンガ専門店では多種多様なカンガが売られていることに気づくことができるようにした。タンザニアの生活では蚊帳がかかせない。こちらもクイズにしたところ、映画「となりのトトロ」の記憶から蚊帳を連想することができた子どももいた。蚊から病気になることも新しい発見であったようだ。

最後にタンザニアでは水が自由に使えないことを伝えた。事前に生活用水を書き出していたので、子ども達は水を使えない不便さを想像することができたようだ。

【子ども達の感想】

- ・ビリヤニやチャイがタンザニアにあることがわかった。
- ・タンザニアでは使える水が限られているからびっくりです。
- ・日本には水がいっぱいあるからタンザニアにも水がいっぱいになってほしい。

4限目：タンザニアと関わりのある国や人々

始めに前回の授業を振り返り、水を自由に使えないタンザニアに「今」と「大人になったとき」に何ができるか考える時間を設けた。

「今」水を大切に使う。お手紙を書く。遊びで水を出さない。水のある平和なところになるように願う。

「おとなになったとき」旅行にタンザニアに行って水を持っていく。水道を作る。水をたくさんあげる。

指導者としては、子ども達が正解を導き出すことを目的とはせず、ここでは自分に何ができるかを「考えよう」とすることを重点においた。

そしてタンザニアにたくさんある日本製品に気づけるようにクイズ形式で紹介した。子ども達はすぐに日本の信号や自動車を発見した。意外にもタンザニアに日本のものがたくさんあることにあまり違和感がないようであった。そしてインドの自動車会社や中国が作った鉄道を紹介し、タンザニアでも多くに国と関わりがある様子を伝えた。

今回はJICAについても紹介し、タンザニアの水問題において日本が協力を行っていることや、青年海外協力隊の方がタンザニアの教育に関わっている様子を伝えた。こうしたタンザニアで活躍される日本の方々の日本の子ども達へのメッセージを披露した。

～タンザニアで活躍する人々からのメッセージ～

「ちがうことを行いたい。」 専門家 加藤さん

「見て 体験して 感じてほしい。」 青年海外協力隊 橋本さん

「タンザニアには 貧しい人はいません。」 青年海外協力隊 野川さん

【子ども達の感想】

- ・タンザニアの人が元気そうでよかった。会いに行きたいよ。
- ・タンザニアで活躍する人がいて、水をいっぱいあげて、元気になって欲しい。
- ・この勉強をすると、大人になったら友達と海外に行ってみたいです。

5限目：ウガリを食べよう

タンザニアの食べ物を振り返り、ウガリの作り方をまずは想像できるようにした。実際にウガリ作りを見学した際には、白い粉がお湯によって膨らむ様子に驚いていた。給食時にみんなで試食した。多めに作ったウガリはおかわりを欲しがる子ども達によって完食した。中には偏食の子どももいたが「先生、おいしかったよ！」ということばが聞けた。

【子ども達の感想】

- ・おもちとごはんみたいでおいしかった。
- ・お米みたいだった。味はかわっていた。
- ・とってもおいしくて気に入った。
- ・ジャガイモみたいだった。右手でこねるとおいしそうでした。大人になったらみんなにウガリを作つて食べさせてあげたいです。

授業実践を通しての所感・反省点・今後の改善策

たくさん伝えたいことがありを厳選するのは本当に大変だった。厳選したつもりでも、振り返ってみるとやはり情報が多かったと思う。

子ども達にとって「外国」がまだ遠い存在であるようだ。授業を見学しに来ていた頂いた国際協力推進委員の方々からお話を聞くことができたのは子ども達にとって指導者の一方的な話とは異なり、貴重な時間だった。そして「ぜひ外国に行ってください。」と言って頂けたのは子ども達にとって、いつか自分も外国に行くことができるという勇気が湧いたようだ。

タンザニアで体験したことを単に伝えるだけではなく、将来子ども達が滞在したいと思えるような授業づくりに私も励みたいと思う。

せいかつについて



パンとキャッサバ

クイズ
この人が食べているのは何でしょう?クイズ
この白い布(ぬの)は何でしょう??

使用教材

国土について

タンザニアグッズ1
ティンガティンガ マコンデ彫刻
ポストカードなどタンザニアグッズ2
ティンガティンガ ウガリ棒
英語の教科書 タンザニアのお札など

キリマンジャロの写真

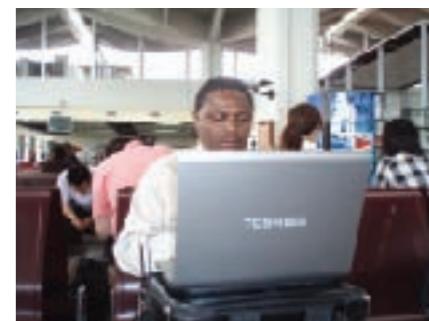
タンザニアと関わりのある国や人々



日本の信号



JICA



日本製品を利用するタンザニア人

ことばについて



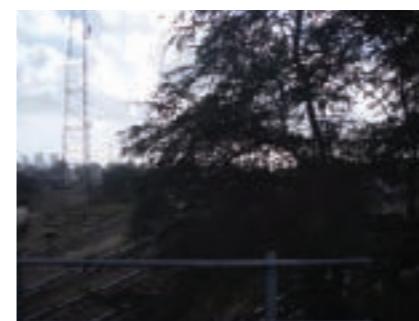
タンザニアのお札



タンザニアのお札



タンザニアの小銭



中国が作った鉄道



TATA (インドの車の会社)